

# 平成30年9月 データから見た業界の動き

## ■ 概 況

平成30年9月の山梨県内のD I値は、売上高は－6ポイント、収益状況は0ポイント、景況感は－2ポイントと前年比・前月比共にマイナス傾向となった。

製造業では、中部横断自動車道関連工事のコンクリート等の原料である砂利・山碎石の出荷量が増加した一方で、食料品製造業や家具製造業は仕入価格や燃料費の高騰が収益を圧迫、工作機械部品加工業では半導体製品需要の一服感から取引量の減少の影響が大きく、前年同月比で収益状況こそ変化はなかったが、売上高は10ポイント、景況感5ポイント低下した。

非製造業では、宿泊業で台風24号の影響による宿泊キャンセルや、運輸業で雨天が多かったことから外出が控えられタクシー利用者数の減少の報告があった。また、北海道地震や台風21号の影響により農産物の品不足や価格上昇から青果小売り業の売上が低下、前年同月比は－20ポイントダウンとなった。

地方の中小企業者は業種を問わず、人材不足が問題となっており、特に警備業、建設業、廃棄物処理業などでは将来的な事業の継続、事業量の確保にも影響を及ぼしかねない状況である。

来年4月より段階的に施行される「働き方改革」への対応では、現状よりさらに人件費の上昇が危惧されると共に、労働時間の制限、有給休暇の計画的な取得などから労働生産性の向上への取り組みを加速させなければならない。人材の確保とともに経営力向上や経営の改善に対する取り組みを支援する施策の創設が望まれる。

## ■ 業界からのコメント (業界ごとの詳細は、以下のコメントを参照)

### ● 製 造 業

食料品（水産物加工）	台風・地震等の自然災害が影響し、消費の冷え込みを感じた。業務用は前年同月比の売上は平年並み。ギフト・おせちが不調で、全体の売上は前年同月比86.7%と不振であった。
食料品（洋菓子製造）	自社製品の輸出向けは平年並み。専門店向け及び量販店向けとも落ち込み、前年同月比95.7%。OEMは焼き菓子・冷凍ケーキが不調で96.0%全体では前年同月比95.8%。
食料品（パン・菓子製造業）	原油価格の高騰からボイラーで使用する灯油価格も高騰したが、燃料の値上がり分を商品価格に転嫁できず、厳しい状況。
食料品（酒類製造業）	ワイン用のブドウの仕込みが最盛期である。他県と比べ山梨は好天に恵まれたのでワインの出来に期待している。
繊維・同製品（織物）	裏地は前月同様注文が続く。インテリアは受注量はあるが、人材不足のため準備工程（撚糸・染色等）が間に合わない状況である。
繊維・同製品（アパレル）	下請加工商品の取扱数量が減少した。取引価格は変化せず採算はよくない。一方で製造販売の売上は10%増加している。
家具製造	原材料の仕入価格が上昇しているが、販売価格に転嫁できていない。更に仕入価格が上昇する場合には、販売価格の検討を行わなければ利益を確保するのが厳しい状況である。

窯業・土石（砂利）	中部横断自動車道とリニア中央新幹線関連の工事により出荷量が増加し、売上高は前年同月比で30%増加した。
窯業・土石（山碎石）	終盤を迎える中部横断自動車道工事により出荷量が増加した。今後はリニア中央新幹線関連の工事による取扱量の増加を期待している。
鉄鋼・金属 （金属被覆・彫刻業・熱処理業）	後継者・人材確保は厳しい状況である。半導体製造装置業界・通信機器製造装置業界は、一服感があり受注調整が行われている。今後の状況に注視していく。
電気機器 （工作機械部品加工業）	半導体製造装置の生産量減から受注が落ち込み、今後は厳しい状況が続くと考えている。
宝飾（研磨）	香港の展示会は、台風の影響で予想をした来場者数に至らず売上高は減少した。
宝飾（貴金属）	宝飾品フェア（イベント）が多かったが、受注が少ない状況だった。

## ● 非製造業

卸売（ジュエリー）	国内の流通は悪い。海外への販路拡大に向け香港の展示会に出展したが売上につながらなかった。バンコクフェアでは14社が出展し、伝統技術の甲州切子が海外のバイヤーから注目された。
小売（青果）	晴天が少なく、野菜は品薄状態が続き仕入高となった。売上高は前年同月比8.6%、収益状況は2%増加した。
小売 （電気機械器具小売業）	地震・台風等の自然災害の影響か、省エネ・蓄エネへの関心が高まりつつある。
小売 （ガソリン）	原油価格の高騰により、卸価格も急上昇している。
商店街	商店街の再生にむけて行政と協議を行ってる。
宿泊業	台風の影響による宿泊客のキャンセル等が見受けられた。梅雨時期と同様に天候による影響が大きい。
美容業	若者は秋に向かいヘアスタイルを気にしており、新しいヘアスタイルを提案すれば受け入れられる。売上は現状維持だが改善にはつながらない。独立希望の従業員や、設備投資を希望する既存店が減少傾向にある。
産業廃棄物処理	人材不足が続いている。
警備業	9月は台風等の天候悪化による業務のキャンセルや警備員不足による受注削減（発注は大幅に増加しているが対応できない）により売上が下方に向かっている。人材不足は深刻であり、求人募集を行うが応募者はほぼいない状況であり、業界としては賃金の引き上げや労働条件の改善に取り組む必要がある。
建設業（総合）	9月の県内公共工事動向によると、前年同月比で件数は2%減少しているものの、請負金額は21%増加している。9月末累計では件数は5件、請負金額は18%増加している。
建設業（型枠）	公共工事の増加、及び消費税増税前の民間工事の増加に伴い、非常に忙しくなることが予想される。しかし、人材不足、賃金及び材料の高騰など、対応が厳しい状況である。

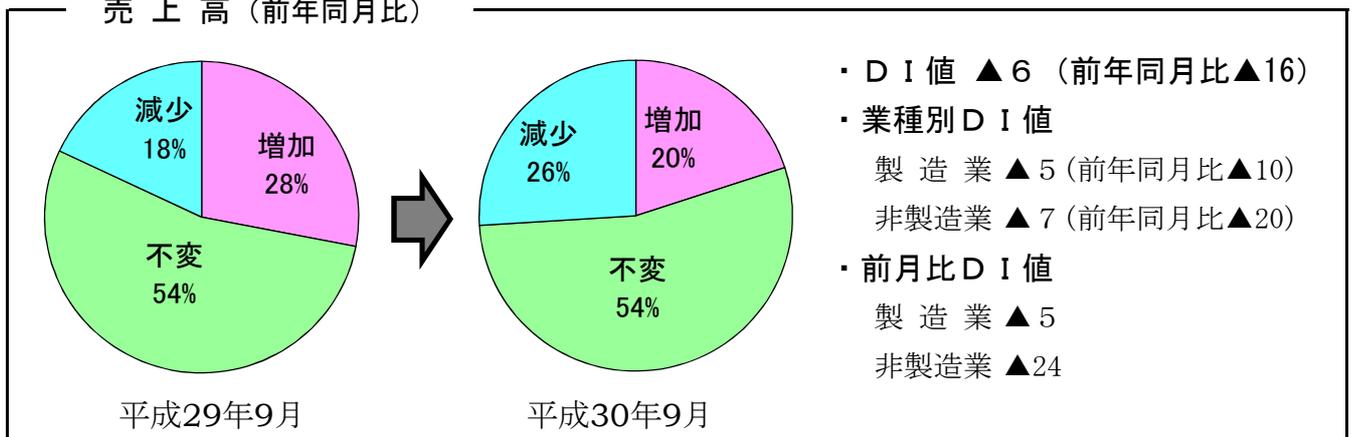
建設業（鉄構）	鋼材・資材の在庫不足・納期の遅れがあり、原材料の発注のタイミングが難しい。
設備工事（電気工事）	猛暑の影響から、これまで冷房がいらなかった地域での空調機導入等の工事量が増加したが、業界に影響のある公共関連工事や住宅着工件数の好転への兆しは見えにくい状況。
運輸（タクシー）	台風・地震等の自然災害が多く消費マインドが低下し乗客が減少、売上も減少した。燃料費の値上がりが続き先行き不透明。

■ 対前年同月比及び前月比景気動向D I 値（好転又は増加の割合から、悪化又は減少の割合を引いた値）

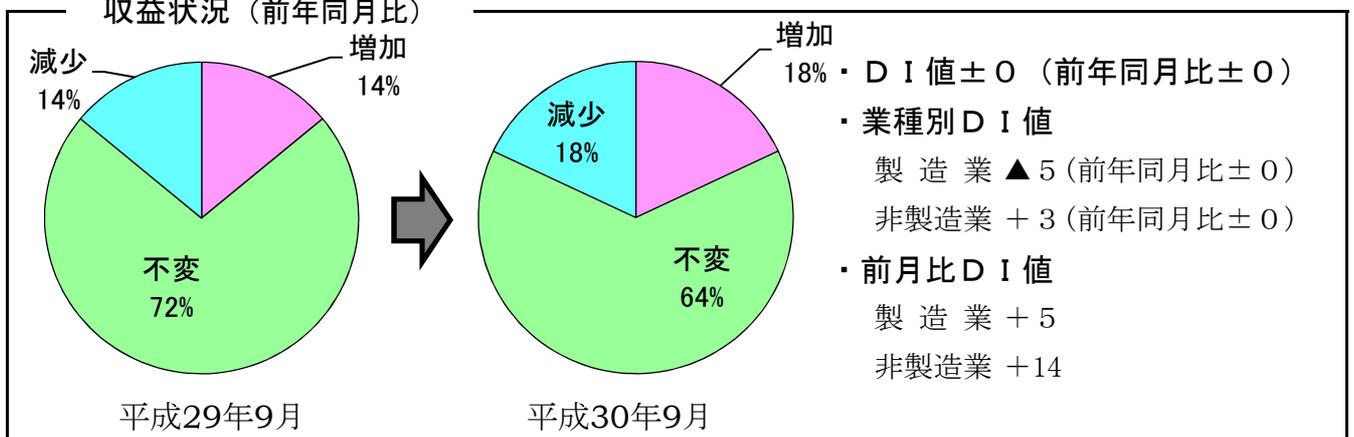
対前年・前月・当月	製 造 業			非 製 造 業			合 計		
	2017/09	2018/08	2018/09	2017/09	2018/08	2018/09	2017/09	2018/08	2018/09
売 上 高	5	0	-5	13	17	-7	10	10	-6
収 益 状 況	-5	-10	-5	3	17	3	0	6	0
景 況 感	5	-10	0	7	10	-3	6	8	-2

※((良数値÷対象数)×100) - ((悪数値÷対象数)×100) = D.I 値

売 上 高（前年同月比）



収 益 状 況（前年同月比）



景 況 感（前年同月比）

